

令和6年度 道徳科授業実践のポイント①

10月2日(水) 5時間目 中津市立豊陽中学校 第2学年2組 T1 穴井捺雄教諭
T2 福田真弓教諭

【主題名】 自己の向上を目指して

・内容項目：A(3) 向上心、個性の伸長 ・教材名：「私は十四歳」(「明日をひらく2」東京書籍)



【ねらい】

不安や悩みを乗り越え、自分らしい生き方を模索する作者の姿を通して、自己を見つめ、自己の適性や能力の発見に努め、個性を伸ばして充実した生き方を追究しようとする意欲を育てるようにする。

<学習状況を把握するための指導の着眼点>

- ・「私」の心境の変化を考えることで、充実した生き方について理解し、自分の生き方について考えを深められたか。
- ・「私」の心境について、ペアや班での話し合いを通して、自分らしい生き方について、多面的・多角的な見方ができていたか。

発問構成

・事前調査「自分らしさ」→ICT端末で回答

【めあて】

自分らしく生きることについて考えよう

【中心発問】

自分らしく生きるとは、どのような生き方をすることなのだろうか

・グループでの話し合い

【補助発問】

「私の中で何かが変わり始めた」のは、なぜでしょう

・ワークシート記入

【ポイント②】評価方法の工夫

【振り返り】

自分らしく生きるとは、自分の力を信じ、自分の内面を磨こうとする生き方をすること。そのためには、自分自身をしっかりと見つめ、周りからの評価に左右されず、自分の目標に向かって努力することが大切である。

- ・ICT端末で回答
- ・教師の説話を聞く



【ポイント①】導入の工夫



- ◇教師は、「(主人公が)部活をやめることに賛成か、反対か」と問い、生徒はロイロノートで回答しました。
- ◇賛成→青色、反対→ピンク色、どちらともいえない→黄色と、生徒の考えがひとめで分かるように、シートの色分けをしていました。
- ◇シートの色=生徒の立場を明らかにした上で、その理由を尋ねるという展開になっていました。

- ◇T1は、授業全体を進めていき、T2は、教材文の範読や板書をしていました。
- ◇明確な役割分担を事前に打ち合わせて授業を行っていました。
- ◇役割分担を行うことで、次のような効果が期待されます。
- ・机間指導をより細かく、丁寧に行うことができ、生徒との対話やより深く考えさせる声かけができる。
- ・生徒の評価をより多くの視点から行うことができる。



【ポイントもっと詳しく】

- ①導入の工夫 → P 3 8
- ②具体的な評価の方法 → P 1 6・1 7

【参照資料】大分県道徳指導資料
「道徳科」評価と授業構想の在り方

